

愛知県環境影響評価審査会豊田・岡崎地区研究開発用地部会会議録

1 日時

平成19年10月4日(木)

午後2時5分から午後4時30分まで

2 場所

愛知県自治センター4階 大会議室

3 議事

- (1) 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業環境影響評価方法書について
- (2) その他

4 出席者

(1) 委員

芹沢委員(部会長)、内田委員、岡村委員、清水委員、長谷川委員、柳澤委員(以上6名)

(2) 事務局(愛知県)

(環境部)山本技監

(環境活動推進課)河根課長、藤野主幹、近藤主任主査、平野主査、松尾主任、関本技師

(大気環境課)内藤主査、那須主任、溝口主事

(水地盤環境課)吉田主任

(自然環境課)磯谷主任

(資源循環推進課)渡辺主任

(3) 事業者

(愛知県企業庁)

餅原主幹、打田主幹、福永主任主査、大橋主査、藤田主任

5 傍聴人等

傍聴人4名、報道関係者なし

6 会議の内容

(1) 開会

事務局あいさつの中で、10月3日に事業者から猛禽類調査結果が発表されたとの報告があった。

(2) 議事

ア 部会長及び部会長代理の選任について

- ・ 部会長について、岡村委員より推挙があり、芹沢委員が互選により選出された。また、芹沢部会長の指名により、大東委員が部会長代理に選任された。

イ 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業環境影響評価方法書について

- ・ 会議録の署名について、芹沢部会長が内田委員と清水委員を指名した。
- ・ 事務局から、資料「審査会（平成19年9月6日）における指摘事項及びその対応」について説明があった。

< 質疑応答 >

【芹沢部会長】 審査会での指摘事項への事業者の見解において、植物に係る既存文献の信頼性に関しては答えられていない。多くの文献を集め、多くの人に聞くと情報の漏れはなくなるが、信頼性は落ちていく。

【事務局】 今後、事業実施区域及びその周辺の状況については、方法書に書かれている現地調査で確かめられると考えている。

【柳澤委員】 環境配慮事項として、できる限り新エネルギーを導入することとなっており、この場所では水力や地熱は使えないので、太陽電池や風力発電が想定されるが、鳥類等への影響が心配されるので、適切な範囲を考えてほしい。

【事業者】 新エネルギー導入についてはご指摘の点をも含め、行った方がいいのか、行わない方がいいのかも含め検討していく。

【芹沢部会長】 風力発電などの発電事業は、環境影響評価の対象事業となっているか。

【事務局】 火力発電所、水力発電所は対象だが、風力発電所は環境影響評価法や環境影響評価条例の対象事業になっていない。

- 【芹沢部会長】 風力発電については、今後の課題と思われる。
- 【長谷川委員】 方法書の4-24ページのほ乳類の調査で、コウモリの調査は行われるのか。は虫類と両生類の調査は目視観察調査となっているが、捕獲調査は行わないのか。
- 【事業者】 コウモリはほ乳類として調査していく。は虫類と両生類については捕獲して標本にするのではなく、一時捕獲して目視により識別し記録を取りその後放す。
- 【長谷川委員】 コウモリの調査はどのような手法か。
- 【事業者】 コウモリは超音波を発しているの、その状況で確認する。
- 【長谷川委員】 方法書に調査方法が具体的に書かれていないため実施されなかったということではいけない。調査方法を具体的に記載しておく必要がある。
- 【芹沢部会長】 コウモリの調査はかすみ網などを使った方がいいのではないか。
- 【事業者】 具体的に調査方法を示していただいたので、検討する。
- 【柳澤委員】 調査範囲の面積、例えば定点ポイント当たりの面積を一定にするなど、調査のばらつきを抑える必要がある。
- 【長谷川委員】 動物の繁殖状況を確認できる調査をしっかりと行っていただきたい。
- 【事業者】 鳥類の調査は繁殖期にも行ったり、は虫類の調査は早春にも行うこととしており、繁殖期にも配慮している。
- 【芹沢部会長】 動物の調査について具体的な調査作業内容を検討してほしい。繁殖状況について問題になるのは、この地域で繁殖が確認されているアカガエル類だと思うが、調査手法を具体的に考える必要がある。
- 【内田委員】 この地域は山林と水田がモザイク状に入り組んだ場所であるため、開発することによって、山林と山林の間が分断されるとと思われる。事業実施区域とその周辺で動物の移動経路をどのように分断するのかという観点の調査がないので、移動経路が把握できるよう調査計画を考える必要がある。また、事業実施区域は東西に長いので、南北方向の分断が起こりやすく、事業区域の真ん中のくびれているところで、どのよう

な回避、低減の措置をとるかを考える必要がある。

【事業者】 この場所を研究開発施設等に使っていくということなので、事業実施区域内ではある程度の分断は起きてしまうと考えているが、その中でどれだけ工夫ができるかということだと思う。

【長谷川委員】 分断による影響は大きく、やみくもにビオトープを造ればいいということではない。動物が行動する場所はどこであるかというポイントをしっかり押さえてほしい。テストコース等のために造成はなされるが、動物の移動経路の分断を避ける意味で、多くの動物が通っていたということを明らかにして、造成後トヨタ自動車がPDCAで活用していくことができる基礎調査としてほしい。タヌキが居そうということであれば、例えば、テレメトリー（発信器）を付けたり、獣道にカメラをおいたりして実態を把握し、その状況を踏まえ獣道等を分断しないようにするという考え方が大切である。現在の調査は、そのようなデータが取れる調査になっていない。

【事務局】 どのような種に注目すればよいかご助言をいただければありがたい。

【長谷川委員】 タヌキは全国的に実績もあるし扱いやすい。カエルやサシバ等も考えられる。移動距離をマッピングすればよい。

【内田委員】 昆虫の多くは成虫になって羽が生えて飛び回るが、もし成虫になっても羽が生えないヒメタイコウチなど移動距離の小さいものがあるとしたら、道一本で分断されてしまうので、特に配慮が必要である。

【事業者】 ヒメタイコウチも文献に上がっているので、今回のご指摘を踏まえ、どういう種を選定しどう扱うのか、これから検討し、準備書に反映していきたい。

【芹沢部会長】 季節的な移動の変化も踏まえて動物の移動経路が把握できるよう調査計画を考える必要がある。

【岡村委員】 土量バランスをとるということだが、改変面積を最小にするように建物を造るところだけ造成して、他は残せないか。研究施設用地をもっと細切れにすれば、移動経路を確保しつつ研究機能も確保できるのではないか。

【事業者】 事業実施区域内で土量バランスをとることにしており、表土を残して戻すということも考えている。調査結果を踏まえながら、トヨタ自動車と検討し、準備書で具体的な計画を示していきたい。

【芹沢部会長】 土量バランスを重視するあまり必要のない所を埋めてしまい深刻な問題が起きることがある。地形の改変を最小限にすべきである。

【事業者】 建物を造る所だけ造成し他は残せないかということについては、今後施設計画の中で検討していきたい。トンネルや橋梁の設置等についても検討していきたい。

【柳澤委員】 鳥類の調査について、方法書の4-25ページで年5回とあり、繁殖期を加えて調査することになっているのはよいが、春と秋、特に秋の調査はそれなりの量や回数を調査しないと、多種類の渡り鳥が通過しているという愛知県の特徴がでないのではないか。

また、発表資料の中で3種類の猛禽類の繁殖状況について示されているが、他にもたくさんの種類が繁殖していると思われる。日本のオオタカはほとんどが鳥食で、サシバはカエル食、ハチクマはジバチかカエル、ノスリはネズミかモグラを食べている。猛禽類が多種類生息している場所であり、生態系としてはごく当たり前の昔の里山を思わせる場所である。一箇所を改変すると何種類もの猛禽類に影響を与えることとなるので、そのつもりで将来の計画を立ててほしい。

【芹沢部会長】 渡りに注意せよとのご意見であると思う。中央アルプスで夏を過ごした鳥はこの辺りを通るので、その点にも留意して調査計画を立ててほしい。

【長谷川委員】 この対象事業実施区域周辺の標高は、約五百メートルから約三百メートルとあるが、地盤のボーリング調査は行われるのか。山間地の場合、地下水を分断しないか心配である。ボーリング調査は他の調査や工事の時にやるのか。

【事業者】 設計計画を作る前に、最終的には200箇所くらいボーリング調査を行い水位の関係も調査する。その資料についても、トヨタ自動車が施設計画を立てる上で参考にしてもらおう。

- 【長谷川委員】 ボーリング調査をすることにより、水脈を調べ、極力水脈を切らないように施設計画すると考えてよいか。
- 【事業者】 水脈については調査してみないとわからないが、ご指摘を踏まえ、極力水脈を切らないようにしてまいりたい。
- 【清水委員】 完成した後がどうなるのか分からない。テストコースについては、テスト車両の騒音等を調べるため、基本的に平場になると思うが、事業実施区域とその周辺も含めて供用後のテスト車両からの影響についてもアセスメントを行うのか。
- 【事業者】 方法書の 2-6 ページに、企業庁の行う造成工事、トヨタ自動車の行う施設の建設工事、また施設供用という 3 工程があるが、本件では施設の供用時も含めてアセスメントを行う。
環境影響評価指針の表現をそのまま使用しており分かりにくくなっているが、4-2 ページでは「機械等の稼働」の中でテストコースの供用による影響も把握していくこととしている。
- 【岡村委員】 テスト車両は全て低騒音型にするということか。
- 【芹沢部会長】 テスト車両の影響も環境影響評価として把握していくということである。
- 【事業者】 方法書の 4-36 ページに調査範囲が示されているが、事業実施区域の外側への影響も把握していくこととしている。
- 【芹沢部会長】 テストコースというのは外部に分からないように使用するので事業実施区域周辺は問題ないと思うが、事業実施区域内の残地森林において生物が住めないようなことにならないように配慮し、評価をしてほしい。
- 【事業者】 ご指摘を踏まえて検討していく。
- 【芹沢部会長】 非人里性の生態系が、約 5,000 人の従業員が集まることにより人里性の生態系に変わっていく。よって、帰化生物や人里性の生物がいけないという現況をきちんと把握してほしい。
- 【事業者】 ご指摘を踏まえて検討していく。
- 【内田委員】 方法書の 4-24 ページと 4-25 ページについて指摘したい。底生生物とあるのは底生動物にすべきである。また、非常に小さな河川ではコドラート調査ではなく、一般採取調査などの方がよい。

【芹沢部会長】 次回までに検討をお願いします。

【岡村委員】 養鶏場は、鳥インフルエンザの関係で野鳥を追い払う対策をとっていることが多いが、対象事業実施区域にある養鶏場の場合どうか。

【事業者】 養鶏場は完全に密閉型で、建物の中が4段式になっており、鳥の鳴き声も外に漏れる可能性がないような状況であり、工場のようになっている。

【芹沢部会長】 委員の方々からいろいろ意見が出たが、次回の部会までに事務局で整理するようにお願いします。

ウ その他

- ・ 10月3日に事業者が発表した猛禽類調査結果について、事務局から報告したい旨の提案があり、報告内容に貴重な種の位置の情報が含まれていることから、芹沢部会長が出席委員に諮り、以後の会議を非公開とすることとなった。
- ・ 傍聴者の退出後、会議を再開し、事業者から猛禽類調査結果について説明があった。

< 質疑応答 >

【柳澤委員】 ビデオ調査を行っているということだが、どのように調査しているのか。

【事業者】 繁殖の阻害とならないよう、百数十メートルの位置から家庭用ビデオに望遠鏡を付けて撮影している。

【柳澤委員】 この調査結果では、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハチクマが繁殖しているので、環境省のマニュアルにあるように、繁殖が判明するような調査を次の季節にはしてほしい。今回の調査は10ポイントの定点を設けて全体的に調査することを目的として行っているが、次の調査は鳥のつがいと開発区域の関係が分かるような調査をする必要がある。

3月から4月の上旬にサシバの春の渡りがあり、5月20日かもう少し早くにハチクマが来て5月の下旬まで続く。それぞれが分かる時期に調査をしてほしい。ノスリの餌はほ乳類である。愛知県ではRDB(レッドデータブック)種になっ

ていないが、神奈川県ではノスリはオオタカより重要視されており、サシバとともに上のランクだと思う。クマタカについては、10月の今頃に伊良湖岬を通る例もあるので、クマタカとこの地域の関係が分かるような調査をしてほしい。ハイタカについては、冬中いて繁殖期にいなくなる。どのように餌を採っているか調べることが大事である。

営巣調査として3月に3名が2日間歩くということだが、オオタカなどは3、4月の繁殖期の初期に圧力が加わると卵を抱くのを放棄することがあるので、その頃は林の中を歩かない方がいいのではないかと。営巣が確認されているのはほとんど6、7月になってからであり、調査をするならその頃に行ってもらいたい。

オオタカ確認位置について、関東では2kmを超えると隣の巣のものであると考える。2.5キロ離れば隣には必ず他のオオタカが居ると思い、慎重に調べてほしい。

サシバは餌のカエルがいれば小さな田んぼでも生活ができる。この飛翔状況の図からするとサシバはずいぶん居るのではないかと。

この猛禽類調査に係る解析手法について、開発区域との関係が分かるものとする必要がある。

この調査とアセスメントの調査との関係を教えてほしい。

【事務局】 ご指摘を踏まえ、事業者による調査に反映されると思う。

この調査は事業者ではなく、トヨタ自動車が主体で行ったものであるが、この調査結果も含めて準備書における影響評価の現地調査と捉えられると思う。

【芹沢部会長】 この調査結果が2シーズン調査の1年目になるのかは検討が必要である。

ノスリは愛知県の場合、このような低地で繁殖するのは稀ではないかと思う。また、ノスリはオオタカより繁殖が少ないかもしれない。冬鳥として評価され、RDBに挙がっていないと思われる。ノスリについては、適切に調査する必要がある。ノスリが巣を作っているようなら、オオタカより重要に扱うべきかもしれない。

【事務局】 この調査で不十分であれば、補足調査を行ってやっていき、また、解析が足りないのなら整理していく必要がある。いずれにしても、この調査だけで準備書になるものではない。

ノスリは RDB に入っていない。また、現在、RDB の改定について進めているところである。

【芹沢部会長】 ノスリについては、RDB の現在の見直しでも挙がっていない。RDB に載っていないものでも載っているもの以上に重要なものもある。この点については、愛知県の鳥に詳しい者に確認する。

【長谷川委員】 豊田市自然観察の森ではサシバの住める森づくりをしているが、サシバがいなくて里山から戻すように努力している。猛禽類がいなくなった時に追跡調査がされないのではないかと。地域の野鳥の会と情報交換ができるかどうかは別として、どのように連携をしていくのか。サシバがどこに行くのかモニタリングの方法を提示してほしい。

【事務局】 難しい問題であるが、開発が行われ、その後この地域の自然がどうなっていくのか、企業がこの地域とどう連携していくのか今後の課題であり、考えていかねばならない。万博の時の情報など我々の持っている情報は事業者側に伝えていきたい。

【長谷川委員】 特に今は、COP10（生物多様性条約第 10 回締約国会議）を開催していこうとしている時であり、先進的にやってもらいたい。このアセスが、地域の自然情報をつなぐ一つになればと考える。また、地域とうまくつながっていく叩き台の資料がここから出てくることを望む。

【事務局】 企業の参加協力、CSR 活動も重要と考えている。現在、愛知県自然環境保全戦略の策定を予定しており、その中に、個別アセスや企業の CSR 活動も位置づけていくことが重要と考えている。そういう視点で行政としてもしっかりやっていきたい。

【芹沢部会長】 サシバは、谷戸田がなくなったら生息は厳しい。豊田市自然観察の森には田んぼがないためにサシバがいらない。サシ

バは人が日常的に耕作していないところでは活動しなくなる。サシバは地域の生態系を考える時に注目する必要がある。

【清水委員】 猛禽類の営巣活動は周辺区域でも行われている。テストコースによる光や騒音の影響が外部に出ないようにしないとその周辺まで影響し、周辺地域の営巣範囲を狭めてしまうおそれがあるので、設計の際には十分検討してもらいたい。事業後のフォローをしっかりと行い、今後行われる他のアセスの参考になるようにしてほしい。

【事務局】 環境監視や場合によっては事後調査という手法はある。

【芹沢部会長】 次回の部会で部会報告を取りまとめることは難しいので、もう一回審議する必要がある。本日言い足りなかったこと、追加事項等があれば、事務局まで連絡していただき、事務局は次回までに検討していただきたい。

(3) 閉会